

我が心のメルヴェーユ ―北の風・南の風―

絵とは何か。なぜ絵を描くのか。

わたしは 遂に解のないこの問題を、ずっと胸の奥に抱え込んだまま今もなお執拗に絵を描き続けている。

まるで、絵を描き続けることそのことがその答えであるかのように。 今や 絵を描くこと、表現することは、わたしにとって殆ど「業」のようなものであろうか。

しかしそれは決して辛い「苦行」ではない。楽しく面白い「苦勞」である。

面白い苦勞の果てに生み出されてきた作品を、わたしは恐る恐る-内心では自信たっぷり- 他者の眼に晒す。

そこでようやく表現は完結し、そのとき作品は晴れて「Objet de Art」 (オダジュダール) となってこの世に生まれ出る。

その媒体もしくは場所となるのが、美術館であり街の画廊だ。とりわけ画廊は、作品をいわゆる「展示価値」として扱うだけでなく、

「貨幣価値」に替えて観客の手に渡してくれる重要な場所である。

しかし、もともと売るために作られたものではない作品、特に、難しい・分からない、などと敬遠されがちな現代美術を、お金に換える仕事は容易いものではにだらう。

しかし、今から5年ほど前、福岡から東京へ進出してきた画廊香月は、その困難な仕事に敢然と挑んでいる。

何よりも、その意欲を支えているのはオーナー香月人美の芸術に対するひたむきな愛と情熱だ。

このたびその画廊香月の企画により、福岡のギャラリーモリタで個展を開くことになった。

佐賀県伊万里の出であるわたしにとって福岡は身近な都会。そして四年前、県立美術館で回顧展を開いたので懐かしい所である。

今回並べる作品は、新作旧作とり混ぜ殆ど紙に描いたドローイングで、実はその大部分は昨年の暮れに北海道は帯広の神田日勝美術館で展示したものだ。

北海道から九州へ一直線。北の人たちの眼に触れたそれらわたしの分身たちが、南の人の眼にどう映る乃か、生みの親としては大いなる楽しみである。

2015年1月12日 池田龍雄